



プラズマ撮像装置 (PHOENIX) 用のエレキ部



OBC: On Board Computer

超小型探査機「EQUULEUS(エクレウス)」の打ち上げ

11月16日、米国新型ロケットSLS(Space Launch System)初号機により、超小型探査機「EQUULEUS*1」が相乗り衛星として打ち上げられました。「EQUULEUS」は太陽-地球-一月圏での軌道操作技術の実証・科学探査を目的とした6U CubeSat(約10×20×30cm)です。

当社は、「EQUULEUS」搭載機器が取得する各種データを処理して地上に送信するため、また地上からの指令を解釈して搭載機器に伝えるための、深宇宙対応可能な高機能計算機(OBC*2)を製作しました。また、地球から離れた位置で地球の磁気圏プラズマの分布を極端紫外光で撮像するプラズマ撮像装置(PHOENIX)に用いられる、エレキ部(アナログ増幅回路、高圧電源、制御・信号処理部)を製作しました。

明星電気は今後もこれまでに培った技術を生かし、日本の宇宙開発や社会の発展に貢献していきます。

*1 EQUULEUS: EQUilibriUm Lunar-Earth point 6U Spacecraft

*2 OBC: On Board Computer

(担当: 宇宙防衛事業部)



講演中のセミナー会場の様子

※主催: 株式会社テクノシステム
後援: 雲南市

雲南市 POTEKA活用気象防災セミナー開催

10月21日、島根県雲南市にて、気象災害に対する防災力アップを目的として、産学官共催でのPOTEKA活用気象防災セミナーが開催されました。当日は雲南市長を始め、市議会議員・市職員、地域自主組織防災担当者にご出席いただきました。

セミナーでは、徳島大学、公立鳥取環境大学、松江工業高等専門学校より3名の准教授をお招きし、「地震・気象観測の現状とデータの高度利用に向けた取り組み」、「豪雨災害に対する地方自治体の防災マネジメント」、「松江高専・米子高専の気象データ利用研究会の活動事例」についてご講演いただきました。

また、「気象データを活用した元気な街づくり」をテーマとしたトークディスカッションもあり、持続可能な地域社会の実現のために、市内15箇所に整備されたPOTEKAの有効活用について活発な議論が行われました。

明星電気は、地域に特化した気象データをリアルタイムで確認できるPOTEKAを用いて、皆さまに役立つ気象情報を提供していきます。

(担当: 気象防災事業部)



当社展示スペース

日本気象学会2022年度秋季大会に新型ゾンデを展示

10月24日から27日にかけて、日本気象学会2022年度秋季大会が北海道大学で開催され、新たに開発した降水粒子撮像ゾンデ(Rainscope)と雲粒子撮像ゾンデ(Cloudscope)の製品展示を行いました。RainscopeとCloudscopeは降水や雲を直接撮像・観測することで気象レーダーの検証用データを得ることができるほか、線状降水帯などのメカニズムの解明に役立つことから多くの先生方や学生から関心が寄せられました。

また、学会内で当社従業員が、POTEKAを利用した突風予測技術の精度検証に関する報告と線状降水帯活性化時における降水量観測結果に関する報告を行いました。

明星電気の気象観測技術が、線状降水帯の発生予測精度向上に活用されています。

(担当: 気象防災事業部)

【文中: 敬称略】

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により、革新的な商品・サービスを創造し、安全・安心な社会の発展に貢献していきます。